

○各施策分野の「目指す姿」と「総合的指標」（例）			別表 1
施策の柱		目指す姿	総合的指標（例）
横断的 施策	環境と経済の好循環	<ul style="list-style-type: none">・持続可能な経済に資する企業経営や投資活動が一般化し、脱炭素型の製品・サービスの供給が拡大するとともに、そうした製品・サービスの需要が拡大し、企業の競争力の向上と県内経済の成長が図られ、環境負荷の低減と経済の好循環が実現している。・環境と調和した農林水産業や、優れた自然を生かした観光産業や各種ツーリズムの展開により、地域の豊かな資源が将来にわたって持続的に利活用され、地域産業の付加価値が向上するとともに、地域の活性化が図られている。・地域資源を生かした持続可能な地域づくりを支える人材が豊富で、都市と農山漁村が地域資源を補完し合い、地域内で資金を循環させる広域的なネットワークが形成されている。・環境に関する科学技術の研究開発が進み、県内経済の成長に貢献している。	<p>「炭素生産性（県内総生産÷二酸化炭素排出量）」</p> <ul style="list-style-type: none">・環境負荷と経済成長の分離の度合いを示す「デカップリング」を示す指標。・環境と経済の関係を端的に表す指標であり、国の第3次及び第4次環境基本計画では、同様の指標として、環境効率性（二酸化炭素排出量÷GDP）及び資源生産性（GDP÷天然資源等投入量）が採用されている。
	持続可能な県土づくり	<ul style="list-style-type: none">・親水空間や緑地、污水处理施設等の整備が進み、快適でうるおいのある生活環境が築かれている。・美しい景観や歴史的なまち並みが保全され、人々から大切にされるとともに、日々の暮らしの中で親しまれている。・歴史的文化的環境の保全について、住民が主体となった保全の取組が展開されるとともに、誇るべき地域固有の資産として地域の活性化に生かされている。・自然環境が有する多様な機能を活用した持続可能で魅力ある県土づくりが進んでいる。・農林水産業や生態系、沿岸域など気候変動の影響を受けやすいあらゆる分野で、将来の気候リスクを考慮した取組が行われている。	<p>「自然環境が守られていると感じている人の割合」</p> <p>「地域の歴史や文化に誇りを感じている人の割合」</p> <ul style="list-style-type: none">・まちづくりの環境的側面を表す「環境保全に対する満足度」と「歴史文化に対する満足度」を示す指標・県の施策に関する県民意識調査において、いわて県民計画（2019～2028）における「いわて幸福関連指標」に関連して、新たに設定された調査項目でもある。
	健康で心豊かな暮らしの実現	<ul style="list-style-type: none">・日常生活の中に省エネルギーや省資源・リサイクルなどの環境行動が広く浸透し、環境負荷の少ない製品・サービスが消費者に選ばれている。・住まいや移動、職場環境など日々の暮らしにおける環境負荷の低減が図られると同時に、健康増進やワーク・ライフ・バランスが確保されている。・環境への配慮や自然とのふれあいを通じた健康で心豊かなライフスタイルやワークスタイルが実現し、それが魅力となって移住者や定住者が増加している。	<p>「自然に恵まれていると感じている人の割合」</p> <p>「住まいに快適さを感じている人の割合」</p> <ul style="list-style-type: none">・生活の質の環境的側面を表す「環境に対する満足度」と「住まいの快適さ」を示す指標・県の施策に関する県民意識調査において、いわて県民計画（2019～2028）における「いわて幸福関連指標」に関連して、新たに設定された調査項目でもある。
環境分野別 施策	気候変動対策	<ul style="list-style-type: none">・省エネルギー性能に優れた設備や機器、再生可能エネルギーを導入した住宅が普及するとともに、健康にも配慮した快適で便利なくらしが実現している。・再生可能エネルギーの導入が進み、市町村等の地域のエネルギー供給体制が構築され、エネルギーが自立し、災害にも強い、快適で充実した社会生活が営まれている。再生可能エネルギーの需給関係を通じた地域のつながりや新たな産業の創出により、経済が活性化し、持続的な脱炭素社会を実現している。・森林整備の必要性に対する理解や木材資源の利活用が進むとともに、本県の豊かな森林の適切な管理が行われ、森林の持つ二酸化炭素吸収源としての機能が持続的に発揮されている。	<p>「温室効果ガス排出削減割合」</p> <p>「再生可能エネルギーによる電力自給率」</p> <ul style="list-style-type: none">・前者は、岩手県地球温暖化対策実行計画の主要指標、後者は、いわて県民計画（2019～2028）の「いわて幸福関連指標」でもある。
	資源循環	<ul style="list-style-type: none">・3Rを基調とした事業活動や生活様式への転換が図られ、廃棄物処理に係る環境負荷が低減された循環型地域社会が構築されている。・優良な事業者が育成されるとともに、不適正な処理を行う事業者が市場から排除され、廃棄物を適正に処理する社会環境が整っている。	<p>「一般廃棄物の最終処分量」</p> <p>「一人1日当たり家庭系ごみ（資源になるものを除く）排出量」</p> <ul style="list-style-type: none">・いわて県民計画（2019～2028）の「いわて幸福関連指標」、岩手県循環型社会形成推進計画の主要指標

	生物多様性	<ul style="list-style-type: none">・森や里、川、海等の優れた自然環境が適切に保全されるとともに、生物の多様性や地域固有の生態系が確保され、人と野生動植物が共存している。・優れた景観や自然環境を有する自然公園、身近な自然とのふれあいの場である森林公園や都市公園等が適切に保護・管理され、野外リクリエーションの場、環境を学ぶ場として多くの方々に親しまれ、利用されている。・環境に配慮した農林水産業の展開や、環境と調和した農地等の利用により、森林、農地、海岸の環境保全機能が持続的に発揮されている。	<p>「イヌワシつがい数」</p> <p>「ハヤチネウスユキソウ個体数」</p> <p>・岩手の代表的希少野生動植物の個体・つがい数であり、いわて幸福関連指標でもある。</p>
	環境リスク管理	<ul style="list-style-type: none">・環境基準にかなうとともに安全で安心できるきれいな大気・水、静かな環境の中で、県民生活が営まれている。・環境基準にかなうとともに安全で安心できるきれいで豊富な水に囲まれ、その恩恵を受けながら、県民生活が営まれている。・環境基準にかなうとともに安全で安心できる土壌環境のもとで、県民生活が営まれている。・化学物質の環境基準が達成されるとともに、化学物質に関する県民の理解が深まり、安全安心な県民生活が営まれている。・有害な化学物質等について、適切な監視、測定や指導等により、適正な管理や使用が行われ、水や大気等の安全性が守られている。・環境影響評価制度等に基づく基準が遵守され、大規模な開発事業等における環境への影響の回避や低減が図られている。	<p>「公共用水域の BOD（生物化学的酸素要求量）等環境基準達成率」</p> <p>「大気の大気二酸化窒素等環境基準達成率」</p> <p>・水、大気、土壌の環境リスク管理に係る代表的指標であり、前者は、いわて幸福関連指標、後者は、県民計画の具体的推進方策指標でもある。</p>
	環境教育	<ul style="list-style-type: none">・多くの県民が環境問題について理解を深め、自らの問題としてとらえ、自発的に活動することにより、持続可能な社会づくりに取り組んでいる。・県民、NPO、企業、行政等の協働により、環境に配慮した行動が日常生活や事業活動の場で実践されている。	<p>「水生生物調査参加者数」</p> <p>・主として子供たちが川で生物を採集し、それらの生活を知ること、生物の多様性だけではなく、いのちのつながりや人間と自然環境の関係等に気づくことを目的とした調査であり、持続可能な開発のための教育（ESD）の理念とも合致する本県の環境学習を代表する取組。県民計画の具体的推進方策指標でもある。</p>